

科目名	地域教養の学び			ナンバリング	RLA111	授業形態	講義
対象学年	1	開講時期	集中(前期)	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	久呉高之	担当教員	大原貴弘、鎌田真理子、久呉高之、小池久恵、田中美和、名取洋典				

授業の概要	地域教養学科の教育の目的、目標、内容、方法に関する概説を踏まえて、各メジャー、サブメジャーを中心とするカリキュラムの体系を把握することにより、卒業までの学科での学びについて、受講者一人ひとりが展望と計画とをもてるようになることを目標とする。キャリア設計という観点からみて望ましい履修の仕方についての理解を養うが、単なる科目履修ガイダンスではなく、なぜそれを履修するのかを主体的に考えることを主眼とする。						
到達目標	1. 地域教養学科の教育の目的・目標・内容・方法について、そのポイントを説明できる。 2. 各メジャー、サブメジャーを中心とするカリキュラムの体系について、そのポイントを説明できる。 3. 地域教養学科での卒業までの学びについて、自らの展望と計画とをもつことができる。 4. キャリア設計という観点からみて望ましい履修の仕方について、そのポイントを説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	自らの属する学科のカリキュラムを中心とする学びの全体についての授業科目であることを肝に銘じて履修してほしい。授業期間中は『大学案内』や『履修の手引』を常に携帯し、折に触れて継続すること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
① 地域教養学科のカリキュラムについて、メジャー制やカリキュラムの体系の概要を説明できる。 ② 3つのメジャーと6つのサブメジャーの内容と特色について、ポイントを説明することができる。 ③ メジャーとサブメジャーとの組み合わせにもとづいて設定されている諸種の履修モデルの各々について簡潔に説明することができる。 ④ グローカルな人材養成の基盤である全学共通教育科目、とくに一般教養科目について、その意義や履修の仕方を説明できる。	① メジャー制の利点やカリキュラムツリーについて説明できる。 ② メジャー/サブメジャーの各々の履修モデルについて、具体的に説明できる。 ③ 全学共通教育科目の位置づけ、専門教育科目との関係を説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		40%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		40%
授業態度・授業への参加			○	○			20%

課題、評価のフィードバック	1. 最終成績評価が60点未満の学生には、希望者にかぎりレポートを課す。
---------------	--------------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	地域教養学科のカリキュラム	メジャー制というシステムを機能させるために、どのような特色あるカリキュラムが編成されているか、またカリキュラムの体系的性と順序性について、カリキュラムツリーをもとに解説する。(名取)	
	第2回	各メジャー、サブメジャーの内容・特色の概観	3つのメジャーと6つのサブメジャーの各々の概観にもとづき、各メジャー、サブメジャーの内容・特色を簡潔に解説する。(大原)	
	第3回	全学共通教育の諸領域	グローバルな人材養成の基盤としての全学共通教育について、とくに一般教養科目の意義や専門教育科目との関係、履修の仕方について、解説する。(久呉)	
	第4回	地域教養とメジャー制	「地域教養」とはどのような考え方であるのかの理解を踏まえて、メジャー制がその考え方にもとづくシステムであることと、各メジャー、サブメジャーの概要について解説する。(大原)	
	第5回	将来設計と履修モデル	メジャーとサブメジャーとの組み合わせにもとづき諸種の履修モデルが設定されていることを踏まえて、どのような将来設計(キャリアデザイン)にどのような学修計画が適合するかを解説する。(大原)	
	第6回	各メジャーの内容と特色 1 「地域と社会」メジャー	「地域と社会」メジャーの内容・特色の理解を踏まえ、本メジャーと各サブメジャーとの組み合わせにもとづき設定されている5種の履修モデルについて解説する。(鎌田)	
	第7回	各メジャーの内容と特色 2 「心理と人間行動」メジャー	「心理と人間行動」メジャーの内容・特色の理解を踏まえ、本メジャーと各サブメジャーとの組み合わせにもとづき設定されている5種の履修モデルについて解説する。(名取)	
	第8回	各メジャーの内容と特色 3 「国際コミュニケーション」メジャー	「国際コミュニケーション」メジャーの内容・特色の理解を踏まえ、本メジャーと各サブメジャーとの組み合わせにもとづき設定されている6種の履修モデルについて解説する。(小池)	
	第9回	各サブメジャーの内容と特色 1 「地域公共政策」サブメジャー	「地域公共政策」サブメジャーの内容・特色の理解を踏まえ、本サブメジャーと各メジャーとの組み合わせにもとづき設定されている3種の履修モデルについて解説する。(菅野)	
	第10回	各サブメジャーの内容と特色 2 「地域とビジネス」サブメジャー	「地域とビジネス」サブメジャーの内容・特色の理解を踏まえ、本サブメジャーと各メジャーとの組み合わせにもとづき設定されている3種の履修モデルについて解説する。(鎌田)	
	第11回	各サブメジャーの内容と特色 3 「復興支援」サブメジャー	「復興支援」サブメジャーの内容・特色の理解を踏まえ、本サブメジャーと各メジャーとの組み合わせにもとづき設定されている3種の履修モデルについて解説する。(鎌田)	
	第12回	各サブメジャーの内容と特色 4 「ICT」サブメジャー	「ICT」サブメジャーの内容・特色の理解を踏まえ、本サブメジャーと各メジャーとの組み合わせにもとづき設定されている3種の履修モデルについて解説する。(名取)	
	第13回	各サブメジャーの内容と特色 5 「日本語・日本文化」サブメジャー	「日本語・日本文化」サブメジャーの内容・特色の理解を踏まえつつ、本サブメジャーと各サブメジャーとの組み合わせにもとづき設定されている3種の履修モデルについて解説する。(久呉)	
	第14回	各サブメジャーの内容と特色 6 「教職」サブメジャー	「教職」サブメジャーの内容・特色の理解を踏まえ、本サブメジャーと「国際コミュニケーション」メジャーとの組み合わせにもとづき設定されている履修モデルについて解説する。(小池)	
	第15回	まとめ	各回の講義内容や地域教養学科での学び全体に関して、受講生の理解における不備な点や疑問点を洗い出し、質疑応答によって、それらを解消する。(久呉)	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とで進める。毎回、小テストやコメントを課す。		
授業外学習の指示		『大学案内』や『履修の手引』によって講義内容を復習する。不明な点は必ずこれらの冊子によって確認するか教員に質問すること。余裕があれば、次回の講義に対応する関連個所を読み、概要を理解しておく。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	『大学案内』『履修の手引』および授業内で配付されるプリントをテキストとする。
参考書	そのつど指示する。参考文献として、各メジャー、サブメジャー、キャリア教育関連の推薦図書が図書館のシラバスコーナーに配架してある。
参考URLなど	そのつど指示する。
その他	学科の基本的、中心的科目であるため、成績評価はとくに厳格なものとなる。毎回『履修の手引』を持参すること。